

ご あ い さ つ

岐阜県立関特別支援学校

校長 渡辺 政幸

岐阜県立関特別支援学校のホームページをご覧ください、誠にありがとうございます。

校 訓

盡 力 必 成（じんりょく ひっせい）

当校は、『盡力必成』を校訓とし、その言葉通り、児童生徒たちがそれぞれの可能性を最大限に引き出し、成長するために尽力しています。この校訓を胸に、私たちは児童生徒一人ひとりの個性や能力を尊重し、支援しながら、未来への道を切り拓いていきます。



【校 章】

当校の校章は山査子（さんざし）の花をモチーフにしています。山査子の花が咲くのは、1 年の中で最も過ごしやすい季節であると言われる5月です。そのことから、メイフラワー（5月の花）とも呼ばれ、5月になると当校の校庭でも、白く美しい花を咲かせます。

校章の中央にある「Y」は、成長する若芽の様子と、開校時の校名である「岐阜県立養護学校」の「Y」を表しています。

山査子の花言葉には「希望」「慎重」があります。「希望」という花言葉には、花が咲くことで新しい始まりや未来への期待を象徴しており、前向きな気持ちを与えてくれます。「慎重」の花言葉は、山査子の枝にある鋭いトゲがその由来となっています。トゲは自分を守るためのものであり、慎重さや注意深さを象徴しています。この花言葉は、困難や危険に対して慎重に対処することの重要性を教えてくれます。このように、校章のモチーフとなった山査子の花言葉には、私たちにとって大切なメッセージが込められています。新しい年度の始まりにあたり、希望をもちつつも慎重に進むことの大切さを感じていただければと思います。



【山査子の花】

さて令和7年は、「乙巳（きのとみ）」の年にあたります。「乙」は、困難を乗り越えながら紆余曲折を経て進む様子を表し、しなやかに伸びる草木を象徴しています。「巳」は蛇のイメージに由来し、「再生と変化」を象徴します。このように「乙」と「巳」が組み合わさった「乙巳」は、変化と成長を象徴しています。この年を迎えるにあたり、私たちは新たな挑戦を恐れず、柔軟に対応し、自己成長を遂げることを目指していきたいと考えます。変化は時に不安を伴いますが、それは新たな可能性への扉でもあります。

当校にとって今年度は、隣接する各務原市に「かかみがはら支援学校」が開設されたことに伴い、児童生徒数が減少し、同時に職員数も減ることになり、学校の小規模化が進むという変化の年でもあります。しかし、その変化を前向きに受け入れ、全校の児童

生徒、教職員、そして保護者の皆さまを始めとした、この学校のサポーターの皆さまと一緒に、今自分たちができる精一杯のことをしながら、目の前にいる児童生徒と一緒に、関特別支援学校の一員として、自分たち自身の成長を楽しむ年にしていきたいと考えています。

なお、このホームページには、当校の概要や学校行事、進路状況、学校評価、地域支援事業等、多くの情報を掲載しています。当校についてご理解を深めていただくとともに、その魅力も知っていただけると幸いです。皆様方の一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【令和7年4月】